



新年度が始まりました。新しい出会いにドキドキしますね。すべての子どもたちにとって、そして先生方にとってすてきな出会いとなり、素晴らしい1年となることを願っています。

昨年度、小中学校等を訪問させていただき、各学校においてどの子どもも学びやすいような工夫が随所になされていると感じました。今回は、昨年度本校で研修した「ユニバーサルデザインの授業づくり」について取り上げました。必要に応じてご活用ください。今年度も、気になるお子さんがいて、戸惑われること等がありましたら、お気軽にご相談ください。

ユニバーサルデザインの授業づくり

ユニバーサルデザインの授業づくりとは、障害のある子どもたちのつまずきを想定し、配慮や工夫をすることで、すべての子どもたちが参加しやすい学校、そして分かりやすい授業にしようというものです。

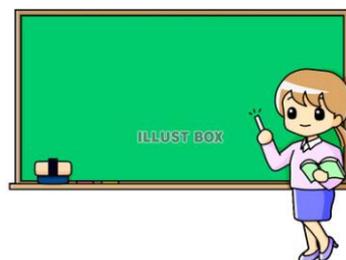
＜学習環境のユニバーサルデザイン化＞

- ・場の構造化（定位置に決められた物を置くなど整理整頓に心掛ける）
- ・視覚、聴覚の刺激量の調整（静かで落ち着いた環境が望ましい）
- ・ルールの明確化（ルールを確認できるようにする）
- ・子ども同志の相互理解（一人一人が目標を立てそれに向かって努力する、誰もが「分からない」を言える）



＜指導方法のユニバーサルデザイン化＞

- ・時間の構造化（授業の見通しをもたせる）
- ・情報伝達の工夫（聴覚だけに頼らない）
- ・参加の促進（ヘルプカード、空白の時間の排除）
- ・展開の構造化（何をどのタイミングで、どうつなげるか）



＜大切にしてほしいこと＞

- ・教師の聞く態度（子供の見本となるような聞く姿：表情、うなずき、アクションが大切）
- ・「～したい」気持ちの育成（「～できる」以上に「～したい」気持ちを大切に）
- ・認められる場の設定（「ルール」は守るためにあるのではなく気付き、守り、ほめるために）

（富山県総合教育センターの近江ひと美研究主事の講義「ユニバーサルデザインの授業づくり」より）

本の紹介

今回は、ユニバーサルデザインの授業づくりに関連した本を紹介します。

★通常学級での特別支援教育のスタンダード（東京書籍）

東京都 日野市公立小中学校全教師・教育委員会 with 小貫 悟

自己チェックとユニバーサルデザイン環境の作り方などが事例とともに画像などで具体的に示されています。

★授業のユニバーサルデザイン入門 どの子どもも楽しく「わかる・できる」

授業のつくり方（東洋館出版）

小貫 悟、桂 聖

特別支援教育の視点を教科教育に取り入れるヒントがいっぱいです。

～本校では、今回紹介した本以外にも、特別支援教育に関する図書がありますので、必要な場合はご連絡ください～